

大田原・那須黒羽営農研究会



30年の取り組み実る

【大田原】地域のコメ農家でつくる「那須黒羽営農研究会」は23日、黒羽地区のほ場で、30年近くもかけて開発したコメ2品種の稲刈りを始めた。「希望の星」と「ゆめきせき」で、6月に品種登録され、その後初の収穫。研究会メンバーは成果を喜び栽培、販路の拡大も視野に入れる。（山崎一洋）

コメ新2品種を初収穫

研究会は、黒羽地区などの農家8人で構成。個性的で高付加価値のコメを提供しようと、1995年から研究者の助言を受けるなどしながら、取り組みを進めてきた。

コシヒカリとササニシキをかけ合わせた約300株を栽培。食味や栽培効率などを吟味し、新品種を目指す株を選び抜く作業に腐心した。

一方、農薬や化学肥料を使わず、湿田が多い地域に合わせた自然農法を推進。水田に紙シート「紙マルチ」を敷いて雑草などを抑える栽培法に取り組み、2品種は品種登録された。両品種は「コメ本来の甘みがある」

「ゆめきせき」を手刈りで収穫するメンバー

設 問

【1】那須黒羽営農研究会が開発した新品種のコメの名前を、記事から二つ書きぬきましょう。

【2】【1】で答えたコメの味の^{とくちゆう}特徴を記事の中から探し、次の言葉に続くように書き表しましょう。

二つの新品種は、コメ本来の

()

【3】次の文章のうち、記事から読み取れる正しいものはどれでしょう。正しい文章を一つ選び、記号で答えましょう。

- ア 記事の二つの新品種は、10年前に開発を始めた。
- イ 記事の二つの新品種は、農薬や化学肥料を使用し、安全安心なコメとなっている。
- ウ 記事の二つの新品種は、全て機械で^{しゅうとく}収穫した。
- エ 記事の二つの新品種は、今季はつながりのある^{しやうとく}首都圏に出荷される。

【4】那須黒羽営農研究会の方たちは、どのような思いで二つの新品種^{しゅうとく}を収穫したと思いますか。記事を読んで、那須黒羽営農研究会の方たちの思いを、次の条件を満たしながら書きましょう。

- 条件1 開発にかかった年数に触れること
- 条件2 開発中の思いや収穫したときの思いを、想像しながら書くこと

一方、粘り気が少なくあつさりしている」という。

ことしは5月、希望の星を約3畝、ゆめきせきは種を取るため少量を田植えした。23日は、ゆめきせきの稲穂を手刈りで収穫。希望の星の収量は約10トの見込みで近く収穫する。

研究会の鈴木一栄^{いちさき}会長（68）＝中野内＝は品種登録に「認められてうれしい」と話す。今季の収穫分は全て、つながりのある首都圏などの販路で出すが、「来季以降、引き合いがあり、作る人がいれば作付けを増やしたい」と語った。

条件3 研究会の方たちが話すようにして書くこと

条件4 100字程度で書くこと

小学校高学年向け
年 組

230